



「安心・安全の
美味しい
ブルーベリーを
召し上がれ」
と高橋さん

山ねこブルーベリー畑

〒019-1613 秋田県大仙市太田町太田字惣行太谷地6-10 TEL.080-8216-6679 FAX.0187-89-1310



広大な土地で多種多様なブルーベリーを栽培。
「たまごの樹」のスイーツにも使用されている(右)。



父の事業を引き継ぎ、独立

まるで山猫が飛び出してきたような奥羽山脈の麓に広がるブルーベリー畑。代表を務める高橋晴香さんは、父親が代表を務める「アグリグループとんぼ」からブルーベリー事業を引き継ぎ、2017年に「山ねこブルーベリー畑」を開業した。

「6月から7月にかけては他の果物が出回らない時季なので、生のブルーベリーの市場価値が高まります。父から継いだ時は早生を中心に扱っていましたが、晩成の品種を増やすことで時期をずらして収穫できるようにしました」。

14種、約1,000本にまで拡大したブルーベリー畑には、高橋代表がひとつひとつ吟味した品種が植えられ、中には500円玉サイズの大きさになる珍しいものもある。それぞれ味や風味に特徴があって楽しめるため、引き合いも多い。

「商品の主力は生果です。これまでは大仙市の産直“しゅしゅえっと まるしゅ”やイベントでの販売を行っていましたが、個人ではこれ以上の販路を見つけるのは難しく、よろず支援拠点に相談したところ、瀧田養鶏場さんを紹介していただきました」。

多くの人に安全と美味しさを

高橋代表のブルーベリーは、その品質や安全性が高く評価され、取引は順調に推移。今年から有限会社瀧田養鶏場が経営する“たまごの樹”で生果の販売を行っているほか、ブルーベリーモンブランやかき氷などのスイーツにも使用されている。今後は収穫量を増やし、通年でも販売可能なジャムやドライフルーツなどの、加工品の量産にも力を入れる予定だ。

「市場の加工品は原材料に外国産を使用したものが多いんです。安定的な量産化を目指し、皆さんには国産の安全・安心なブルーベリーを食べてもらいたいと思っています」。

掲げる理念は“自然の恵みで生きる”。生まれ育った愛する自然の元で、高橋代表は一步ずつ歩みを進めていく。



活用事例

秋田県よろず支援拠点

売上拡大、経営改善など経営上のあらゆる悩みの相談に対応。
コーディネーターを中心とする専門スタッフが適切な解決方法を提案します。

お問い合わせ 秋田県よろず支援拠点 TEL.018-860-5605